8

森の恵みを無駄なく頂きます。
～廃棄物を資源に！エゾシカ捕獲の有効活用事例～

知床森林生態系保全センター　守屋　徹郎
長谷部　文香

背景

「世界自然遺産知床」というワードを聞くと誰しもが、日本を代表する豊かな自然をイメージするのではないでしょうか。勇猛なヒグマ、大空に羽ばたく猛禽類、豊富な水産資源、海を埋め尽くす流氷等多様な生態系が発揮する魅力により世界中から多くの観光客が訪れています。

しかし、近年エゾシカの増殖によって知床の生態系バランスが崩れて多様性が失われる事が懸念されるようになりました。そこで、知床森林生態系保全センターでは平成25年度よりエゾシカ捕獲事業を実施してきました。

今回は、知床地域で発注事業により捕獲した個体を、従来行われていた廃棄処分ではなく、資源として有効に活用できた事例を紹介します。

内容・成果

エゾシカ捕獲事業を開始するにあたり、わな猟と銃猟による捕獲を実施する事になりました。既に知床地域の森林管理署において捕獲事業を実施していましたが、捕獲したエゾシカを産業廃棄物として処理する費用が多額となり問題となっていました。この問題を解消するために、生体捕獲となるわな猟は一時養鹿施設へ、銃猟は食肉加工業者への提供が検討されました。提供元としては、無償で提供する事により産廃処理費を削減できる、体重、後足長等正確な数値データを得られる、受入側としては、比較的安定した供給源の確保、公共事業による捕獲産地の透明性、という双方にとって利点がある事から覚書を締結し、結果として捕獲個体を有効活用出来るようになりました。

産廃処理費の削減
数値データの提供
（提供元）

安定した供給源の確保
捕獲産地の透明性
（受入先）

考察

狩猟者人口が減少傾向にある中、事業としてエゾシカ捕獲を実施する行政の影響力は大きくなっています。増えすぎたエゾシカは厄介者として扱われることが多いですが、私たち人間や他の動物と同じ、生命を宿す尊い存在です。それらを「廃棄物」とするのか、「資源」として全うした命に敬意を払い活用するのか、「コストの縮減」という一言ではくくりきれない有効活用事例になったと思います。